会員交流委員会だより

第12回「山形・酒田・鶴岡地区建物視察会」に参加して

大成建設株式会社
プロポーザル・ソリューション部
日本建築美術工芸協会法人会員
渡辺賢

視察会は11月10日より2日間。1日目は日差し暖かい秋晴れの下、山形城址から天童へ。2日目は曇り空、時折強まる風の中、酒田から鶴岡へ。土門拳記念館の湖面はさざなみ、ざわざわと無音で揺れ続ける中庭の熊笹。日本海にせりだすように建つ加茂水族館の目前で砕け散る大波、まっすぐに歩くことができないほど吹きすさぶ潮風、時に雹がパラパラと…1日目の穏やかさとは対照的な天候と環境。両日共に、訪れたそれぞれの場所の記憶と体感が切り離しがたく結びついています。山形の風土と建築を体感したとても刺激的な視察会でした。

旧済生館本館

山形駅よりバスで山形城址公園へと向かう。暖かな日差しの下、南門から堀を渡って、徒歩数分。色づく木立の向こうに明るい色彩の3層楼が現れた。文明開化の熱さめやらぬ明治初期に山形県立病院として建設された下見板壁の擬洋風建築。原型が大きく損なわれていた昭和42年に、職人の努力と技術によりこの地へ移築復原されたとのこと。中庭のあるドーナツ型の低層部の北側に4層の高層部というユニークな構成。

山形美術館

東大手門から城址をでると、木立の向こうにおおらかな大屋根。山形の伝統的な民家形式を規範し、地に根差した力強い形態。

山形県郷土館「文翔館」（山形県旧県庁舎）

大正5年に建てられた英国近世復興様式のレンガ造りの建物。10年の歳月をかけて当時の工法で忠実に復原された細部が素晴らしい。正面バルコニーから南を眺めると、軸線上に山形市の中心部繁華街が続き、今もかわらず都市骨格の要を担う建物として建ちつづけていることに気づき、うれしくなった。

山形県郷土館「文翔館」（山形県旧庁舎）の前にて

水の町屋

かつて山形市街地には全長115kmに及ぶ水路が生活用水・農業用水として網の目のように巡らされていたが、現在では暗渠化されてしまっている部分も多いとのこと。ここではその蓋を開け、親水空間として甦らせている。その流れに沿って配置された東北初の木造軸組耐火建築による商業施設と共に、中心市街地とは思えない気持ちの良い場所。この場所が契機となって、市街地全体に再び水路が巡り、新たな都市の風景として成長してゆく姿を夢見た。一路、天童へ。

天童木工本社工場

かねてより訪れて見たかった成形合板家具のパイオニア天童木工の工場。隅々まで工夫が凝らされ機能的な生産スペース。「ご縁と挑戦」という加藤社長の言葉に深く感銘。

山居倉庫

明治26年に米の保管倉庫として建造。夏の日射と冬の強い季節風をさえぎる西側の欅並木や二重構造の屋根、にがりと塩を用いた土間等、庫内の温・湿度を一定に保つため当時の建築技術の粋を集めた造りに驚く。

酒田市国体記念体育館

張弦梁とキャンチトラスによる極めてシンプルな構造システム。力の流れを視覚的に伝えながら軽快で美しい。

土門拳記念館

飯森山の山裾に寄り添うように建つ。前面の池が建築と背景の丘を映しこみ、地に深く根差した佇まい。展示作品に息をのみ、記録映像に見入った。時間を忘れる濃密な体験。

土門拳記念館の前にて

鶴岡市立加茂水族館

イベントプールをぐるっと囲む回遊動線。ゆったりと回遊するクラゲに癒された後は、階段状に連続する屋上広場より日本海の荒波を望む。

鶴岡市文化会館

ホールを囲む艶やかで透明な回廊空間。様々な可能性に開かれた、まちの新しい広場。オープンがとても楽しみ。